

新建福岡・NOW

第3号 2011.07

発行元
新建建築技術者集団
福岡支部事務局
〒815-0041
福岡市南区野間 3-9-20-4F
【ケー・プラッツ内】
Tel/Fax 092-541-8128
HP: shinken-fukuoka.net



新建福岡支部の新装機関誌、第3号です。
新建は全国組織であることを生かし、被災地の会員の方々の協力も得ながら、東日本大震災の復興支援や調査活動を継続して行っています。

その様な状況の中ですが、福岡では新建学校(下記)の日も近づいて参りました。多くの会員の方や建築に携わる方、そして建築を学ぶ学生の方々と共に学習する機会を持ててことは幸せだと感じます。(鹿瀬島)

東日本大震災 新建の取り組み



石巻市北上支庁

新建全国の取組

東日本大震災の翌日、大阪で全国幹事会が開催されました。予定されていた会議ですが、震災で参加できない会員も多い中、会員の安否確認と情報交換が行われ、第一次声明を発表すると共に救済募金の呼びかけを行いました。その後、新建東日本大震災復興支援会議を立ち上げ、被災した住民への相談会や会員へのボランティア支援、被災地での調査が精力的に継続されています。新建や会員の活動報告及び協働している他団体、各地の情報は、次のホームページで見ることができます。<http://www.fukkoushien-nuae.org>

ボランティアは、仙台の会員に提供された「サポートイン仙台」(3LDK マンション)を宿泊拠点として活動しています。

新建会員の活動

被災地の多くの会員が、福島県復興ビジョン検討委員会をはじめ、各地の自治体が創設した復興へ向けた委員会等での中心的な役割を担って活動されています。

また、阪神淡路大震災を経験した会員や団体による多くの提言が発表されています。特に仮設住宅などで孤独死が多発した経験を反省し、仮設住宅のあり方に対する提言が行われています。

福岡支部での取り組み

福永氏が避難所向けに海上コンテナを改造した浴室ユニットを製作し、被災地に送り届ける活動を開始、新建福岡ではその活動を紹介するとともに支援。5月23日に東松島市の避難所に設置されました。

4月17日の首都圏全国幹事会に参加した鹿瀬島氏が被災地仙台の視察を行いました。

5月初めには、宮本氏及び片井氏が東京支部の丸谷・高本会員らとともに千葉県、岩手、宮城県を調査しました。福岡で機会がある毎に報告会を行っています。(片井)



浴室コンテナ

『レーモンドの失われた建築』 新建学校 2011 三沢浩 講演会 7月29日(金)

開場:18:30 開演:19:00~
会場:都久志会館 4階 会議室
(福岡市中央区天神4-8-10)
会費:1,000円(学生:500円)
(交際会は別途となります)

【主な出演】
三沢浩(建築家、レーモンドの失われた建築)
三沢浩(建築家、レーモンドの失われた建築)
三沢浩(建築家、レーモンドの失われた建築)
三沢浩(建築家、レーモンドの失われた建築)
三沢浩(建築家、レーモンドの失われた建築)
三沢浩(建築家、レーモンドの失われた建築)
三沢浩(建築家、レーモンドの失われた建築)
三沢浩(建築家、レーモンドの失われた建築)
三沢浩(建築家、レーモンドの失われた建築)
三沢浩(建築家、レーモンドの失われた建築)

「失われた建築」を通して、レーモンドが知り得た日本のモダニズムを説き、しかし併せては意図の疎明と疎略を手がかりに書き残していかねば、建築そのものも見えなくなってしまう。そこで失われたものを通して、日本の近代建築への道を往き、現況や地域に思いを致した建築家の、思想や人間性にも触れられたい。

(『レーモンドの失われた建築』より)

主催:新建建築技術者集団福岡支部

お問い合わせ:おしし 092-541-8128 まで
HP: www.shinken-fukuoka.net TEL/FAX: 092-541-8128 まで
HP: www.shinken-fukuoka.net TEL/FAX: 092-541-8128 まで

今回は、福岡支部会員の矢野さんよりお届けします。
2月に行った支部慰安旅行先の唐津は、矢野さんが若き日を4年間過ごした場所です。
旅から戻った心の中にひろがる大切な「思い出」をためてくださいました。

唐津に思う

矢野 安希子



“兼子さんに何か御用ですか”

中を覗き込んでいた私に、お隣のおかみさんらしき女性から声がかかったのは、曳山会館を出て、真向かいにある、そう、小学生の頃からあった、兼子歯科の前だった。

今から50年くらい前、小学校6年だった私が、初めて好きになった男の子がいた。
席替えで、隣になった兼子君。休み時間にふざけ合ったり、本を貸し合ったり。

いつだったか、家まで返しにくくれた本の中に、兼子君が描いた拳銃のイラストが
挟まれていた。女子に拳銃はないんじゃないかと、小さく胸がキュンとして、嬉しかった。

転勤族の子だった私は、中学2年で唐津を去り、すっかりそんなことも忘れ去りながら
大人になり、デザインの仕事が始めていた。

そんなある時期、久留米の歯科医院の現場が終わり、打ち上げで意気投合していた院長先
生のお姉さんと、時折呑みにでかけるようになっていた。

“私の初恋の人、歯医者さんになってるんですよ” なつかしい思い出を話し始めた私に
返ってきたのは、“兼子先生、5年くらい前に亡くなったんですよ。”という言葉だった。
切れていた時間と、つながり続けていた思いが、結びつかないまま宙にほじけていく。

“優しい先生でしたもんね。”

曳山会館で、DVDから流れる”エンヤ、エンヤ”の声を聞きながら、
涙が流れて仕方なかったのは、そうか。兼子君への追悼の涙だったのかもしれないと。
それでも、あの涙は決して寂しくなく、冷たくなく、暖かい感情を私の中に残してくれて
いた。

人生には、いっぱいのが葉が挿まれていて、時折ページをめくりながら、物語が進んでいく。

そんな思いを、又味合わせてもらった、あの旅に、心から、感謝！

福岡支部 ものづくり企画報告 1/2

ステンドグラスづくり

【担当：山口・田中】
2011. 6. 26 うきは市吉井町’立丁尾花’ 於



参加者は7人。2人がキーホルダー、5人はオーナ
メントを作りました。

キーホルダーは形が長方形で単純な分、銅テープ
を巻く工程も体験できました。オーナメントのほう
は、ハンダづけが主な工程でした。

製作中は皆真剣そのもの。

「難しいなあ」と言う声も漏れていました。

合間には吉井町の町を
散策し、また昼食後は安
政時代の建物を利用した
ギャラリーにも立ち寄り、
充実した一日となりまし
た。（山口）



珪瑯づくり 工場見学・体験

【担当：大坪・原田】

2011. 5. 28 原田珪瑯製作所 於

さる2011年5月28日土曜日、午後から5月例会で原田珪瑯製作所にて『珪瑯づくりを楽しむ』と銘打って珪瑯製作体験・見学会を行いました。

新建築会員8名、会員外の出納さんご夫婦2名の10名の方々が梅雨のはしりの蒸し暑い工場内で『珪瑯づくり』に挑戦されました。

まず、小さな珪瑯の丸(22mm)プレートに好きな番号を自分で印刷してみました。皆さん初めてだったのに期待以上の印刷技術を持っていました、(感嘆しました!)その後、乾燥して直ぐ焼成(焼く)してマイ・ナンバープレートの出来上がりでした。ちなみに神戸の雑貨店では1個、1050円(税込)の商品を皆さんゲットされました、よかったですね。(笑)その後、今度は好きなホウロウ板に思いの色の筆で絵付けしました、皆さんがどんなものを描くのか興味津々で見えていましたが、皆さん結構すてきなものを描かれていますね、これがオリジナルだと思ふものばかりでした。(表札・社名板・マイ皿など)この描かれた板をやはり乾燥して、焼成(焼く)しまして皆さんのオリジナル珪瑯板の出来上がりでした。

この完成品を見まして私は『ものづくり』と言うものを改めて考えました、普段、寸部のくるいもなく、ゴミひとつ無く、色むらもなく、とにかく精度を上げて製品を作ることに徹しています、その様な物にない自由度の有る物の素晴らしさでした。

この様な一面がある物も製作しなくてはと思った次第です、全てのお客様にその意思が通じないかも知れませんが、思いを伝える事も大事だと思います。

第二部の17時からの原田珪瑯2階での懇親会も、夜だけの参加者も増え、大坪さんの段取りの良さから?延々と夜遅くまで盛り上がったことは言うまでも有りませんでした。

また原田珪瑯で催しを企画して、皆さんにお集り頂けるように念じています。ご参加の皆様、お疲れさまでした。

(原田)

珪瑯の製作工程 (フローシート)

以下のとおりです、参考にして下さい。

素材 (鉄板・フェライト系SUS板)

→切断 加工 (曲げ・穴)

→前処理 (脱脂等)

→乾燥 錆止め珪瑯釉薬掛け→乾燥 焼成 (840度)

→上珪瑯釉薬 (白・色物) 掛け→乾燥 焼成 (810度)

→色印刷・絵付け→乾燥 焼成 (750度)、

→ (色数ごと繰り返し) 検品 出荷

色釉薬を掛ける為に釉薬の製造と、色印刷する為に製版という作業が並行して行われます。



今後のイベントスケジュール

7月29日(金) 新建学校2011 講演会

「レーモンドの失われた建築」講演: 三沢浩

8月26~28日 建築とまちづくりセミナー in 伊那

9月11日 西山卯三生誕100年イベント in 京都

11月26~28日 新建全国大会 in 神奈川



編集後記 珪瑯づくりに参加しました。手間ヒマかけてつくるとそれだけやっぱり味わいが出ます。企画は各回、担当する方を中心に進めています。企画そのものもまさに手間ヒマです。この機関誌につながっている皆さんの思いがしっかり届きますように。(神野)

